

## ほっかいどうの防災教育検討委員会 第7回会議 議事録

日時：平成26年2月7日（金）

9:30～12:00

場所：北海道庁別館10階企業局会議室

### （事務局）

定刻となりましたので、ただ今から、「ほっかいどうの防災教育検討委員会」第7回会議を開催いたします。事務局を務めております危機対策課の木戸と申します。以下、座って進めさせていただきます。お手元の資料、1枚目の次第の下に出席者名簿をお配りしております。本日、委員の皆様は全員出席となっております。それでは、引き続き、事務局より配付資料の確認をさせていただきます。（配付資料確認）

ありがとうございました。それでは、議事事項の進行につきましては、委員長の岡田先生にお願いいたします。

### （岡田委員長）

皆さん、年度末のお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございました。

昨年の4月に設置したこの検討委員会も、これまで6回にわたり検討会議を進めて参りましたが、いよいよ最終回となりました。今後残していく資料について、最終的な打合せということになります。

本日は、前半で、防災教育の調査研究事業に関する最終的なとりまとめについて、各種調査やモデル的な防災教育講座の実施結果などを踏まえたモデルテキスト及びDVDの原案などについて、意見交換を行います。

また、後半では、道としての支援やネットワーク型での推進体制に関して、検討委員会をはじめたときから話題となりました、持続性、今後の見通しということで、最終的な方向性のとりまとめという形で整理していくということで、検討を進めて参りたいと思います。

終了時刻につきましては、12時を予定しておりますので、よろしくをお願いします。

それでは、協議事項1の（1）の「防災教育関連資料の調査について」実施状況を事務局より説明願います。

### （事務局）

【資料1-1～1-3に基づき説明】

### （岡田委員長）

ただいま、事務局より調査状況について説明がありましたが、一括して質問等はございますか。かなり充実したものになってきたと思いますので、これにより横の交流も起こって、その中からふさわしいものを選び出していくということもあると思います。ここは今まで大分議論してきたところでございますので、それでは何かあったら別の機会に出していただくこととします。

それでは、引き続き、防災教育推進に必要な支援ニーズなどを把握していくということで進められましたアンケート調査の実施結果につきまして、事務局から説明をお願いします。

### （事務局）

【資料2-1～2-3に基づき説明】

### （岡田委員長）

ただいまの説明について、何かご質問等はございますでしょうか。

最後のところはかなりまとまっていて、北海道地域防災マスターを活用していける、そういう応援団をもっと有効に使ってほしいと、本人達も思っているし、その仕組みも出てきたと思うのですが。

(定池委員)

委員長がおっしゃったことに関係してなのですが、資料2-2-2で最後にご説明いただいた防災マスターの自由記述のところ、一番意見が多かったのが、認知度が低いということです。資料のご説明でもいただいたように、モチベーションがあつて活躍したいのだけれども、防災関係機関の方々と地域の方々の認知度が低いために声がかからなくて、自己研鑽の場も不十分だし、活躍するための場が不十分だということが、地域防災マスターの中で残念に思っている部分だと思っているようです。このあたりを次年度以降、応援してあげると、もともとやる気があつて活躍していただける方達だと思いますので、十分に活躍する機会を設けるといいと思います。そのためには、地域防災マスターとはどういう方なのか、一律の理解をしていただいている訳ではないと思いますので、例えば、知識を得るだけで満足している市民なのか、他の機関が声掛けするとしても、マッチングとして正しいのかという不安もあると思いますので、地域防災マスターを育てる段階やフォローアップの中で、地域防災マスターは最低限こういうことをご存じであったり、こういうことが出来る人達ですよ、という資質の担保みたいなことをしていくと、他機関の方からの声掛けがしやすくなるのではないかと。そういったサポートができればと思います。

(甲谷課長)

地域防災マスターについての補足なのですが、まさにこのことが課題となっています。制度が始まって5年経過しておりますし、人数も約1,400人となっております。道庁としてまず増やすための認定研修を年に3、4回行っております。また、地域の市町村の職員と防災マスターを引き合わせて活用しようという防災ミーティングを昨年度から行っておりまして、各地でこういうことができますよという意見交換も含めてやらせていただいています。最後の取りまとめに書いておりますが、地域防災マスター、地域リーダーの養成というところで、来年度からは研修会をやってほしいということで、フォローアップ研修を行うための予算要求をさせていただいております。テキストの実践編において防災マスターを活用している市町村の事例なども掲載しておりまして、自分の町にいる防災マスターを恵庭市独自で集めて、是非皆さん恵庭市のためにやってくださいということで、市と防災マスターの連携を市の主催で実施しています。こういう事例などを皆さんにお示しし、くっつけることやレベルアップに向けての研修会を、ご意見を踏まえた上でやっていきたいと思っております。

道のホームページにおいて、防災マスターの名簿が掲載されており、皆さんの活動事例なども見ることができます。

(岡田委員長)

いいですね、そういう活動実績も出ていますと、安心してまずやってみようかという気になりますね。有珠山の場合、道庁の支援で火山マイスター制度の募集のときに、養成講座もやっていて、その中でフォローアップ研修も兼ねてします。その中には座学やフィールドワークもあるというかたちですが、マイスターの方が増えてきたので、それ以外で独自に年間事業を色々仕組んでいく、マイスターの中に民間企業の人達がいるので、そういう企業を使った洞爺湖でのジオサイトの研修だとか、ロープウエーの会社を使った研修だとか、民間を使った研修が行われているので、道内1,400人のパワーをどうやって活用していくかということが期待できます。

**(定池委員)**

質問なのですが、委員長の発言と関係するのですが、例えば十勝の方達のように自主的に活動されている方達もいるのですが、道としてフォローアップ研修を行う以外に、火山マイスターみたいに自分達で自主研修を行うことも増えてくると思います。そういうときに講師を呼ぶための資金援助などは、今の段階では検討されていますか。

**(甲谷課長)**

地域防災マスターに対する支援制度ということではないのですが、一般の方々が研修したいというときにアプローチできる支援もありますので、今作成しているデータベースで支援情報を積極的に公表していこうと思っております。残念ながら研修開催費用の予算化はありません。

**(事務局)**

振興局で行っている総合交付金制度を使えば、先ほどの恵庭市のように市がからんで地域防災マスターとの繋がりを深めるような研修会を兼ねた取組をしようとする場合に活用することができます。出来るだけ使いやすい形で取組が進むように支援したいと思います。

**(定池委員)**

札幌などで開催すると遠隔地の方は交通費がかかって自己負担が増えますので、そのエリア毎で展開できたり、そこに来てもらうときの助成や情報、経済的なサポートがあると、活動が自主的に展開しやすいと思うので、行政依存にもならず、良い活躍をしてもらえんと思います。

**(岡田委員長)**

北海道の地方の問題になると、マンパワー不足、防災を専門にやっている職員も市町村にいない、少ないということもあって、それをある程度カバーしていくためには、民間企業を組織的に活用していく仕組みをつくと良いと思います。この委員会の方針の中にあつた「つなぎ」というところがこれに当たるだろうと思います。それから、過去のことを良く知っているお年寄りもいらっしゃいますし、場合によっては若い人達で頑張ろうという人達もいるので、時代をつなぐとか、地域をつないでいくとかそういうかたちでも、これから動いていくと良いと思います。

引き続き、道内6カ所で開催しましたモデル的な防災教育講座の実施結果の総括につきまして、事務局から説明をお願いします。

**(事務局)**

**【資料3-1～3-2に基づき説明】**

**(岡田委員長)**

ありがとうございました。釧路はイベント型で無関心層を対象としておりますが、そのあたりを対象とするものでは、自助のプライマリーなレベルを上げる可能性があると見て良いのでしょうかね。つまりこういうこともちゃんとやっていけば、全体としてのレベルが上がりやすいという、どちらかというところと関心がある方が集まってする機会が多いと思いますが、無関心層を相手に、自分の家で寝るときに物が落ちてこないようにしてもらおう、という実際の行動に繋がるようなことをやることも大事だと思うので、資料を見ると効果が出ているので、こういう取組も大事なのではないか。

**(定池委員)**

資料3-2でご説明いただき、岡田委員長からもお話があつたように、講座をすると意識なりに何らかの変化があるということが、今回のアンケートで分かつたのですが、資料3-1の厚岸に参加された自治体職員の自由記述をみると、住民の意識が低いから出来ない、高めなければならない、ということ

を書いています。防災教育をやる前に高めなければならないとか、防災教育によって高めなければならないということで、時間的制約もあるのですが、企画する職員の中で、住民の防災意識が高くないからできないというように、もしかすると企画する側がハードルを上げてしまっているのかなという気がします。でも、やると何らかの効果があるということは分かっているので、今度は実施する方々向けのハードルをいかに下げるかということも、サポートとして考えていく必要があります。イオンのイベントみたいに、人が集まるイベント、町のイベントのときに、十勝の地域防災マスターは機材を持ち込んで炊き出しをされていますけれども、町の人達が集まる楽しい行事のときに、防災のブースを出すとかパンフレットを置くだとか、自治体の少ない職員の中で、制約がある中でも、こういうことを始めませんかというようなご提案をして差し上げられると、多忙な業務の中でも、職員の方のハードルを下げながら取り組んでもらえると思います。そこで良い反応が出てくると、そこから講座やイベントをやりましょうかという展開もあるかもしれないので、そういった視点での情報提供やサポートもできると良いと思います。

**(岡田委員長)**

気象台もここ何年間、地域に出て防災のサポートをやっていると思うのですが、やってみていかがでしょうか。

**(榎本委員)**

今、お話にもありましたが、無関心層にどう関心を持っていただけるかというのが大きなテーマで、例えば NHK と連携してやっている取組として、子ども達の防災劇場などがあり、そういうところに子どもが来るのですが、実は我々の狙いは幼稚園や小学校低学年の保護者の方で、20代とか30代が割と防災に無関心な層でして、そういう方々がこういうことをきっかけに防災に関心を持ってもらうという取組はかなり効果があると感じております。それから、アンケートのデータで考えとして多かったのですが、これはやり易さとして多かったと思うのですが、本当に担当者の方が効果を考えると、その他の防災ゲームとか HUG を取り入れたいのですが、やり易さから講演会などの形に入りやすいのかなと思いました。

**(岡田委員長)**

こういうサポートが出てくとやり易さも少し出てくるのかなと思います。

引き続き、モデルテキストと DVD の作業状況と構成案などにつきまして、事務局より説明をお願いします。

**(事務局)**

【資料4-1～4-2に基づき説明 (DVD 放映含む)】

**(岡田委員長)**

ただいま、モデルテキストと DVD の構成案などについて、説明がありました。まず、テキストの構成案について意見交換をしたいと思いますがいかがでしょうか。

**(定池委員)**

実践編の「はじめに」の内容は後ろに持って行くことはできないのでしょうか。いきなり国がこう定めたというところから入ってしまうと、行政文書としてはスタンダードなのですが、防災教育のテキストとして市民の方がお読みになるには格調が高いとかいきなりハードルが上がってしまう書き方という印象を受けました。最後の方に我々委員の思いという形で、奥付に移動して、「はじめに」のところは、このテキストはこういう思いで作ったので、活用してくださいというシンプルなメッセージで、

まず中身を見てもらうような構成にしてはいかがかなと思いました。

(鈴木委員)

私も賛成なのですが、何で教育が必要なのかという考え方を書くといいのかなと。大きな災害の発生が予想され、いつも同じような災害が発生し、色々な被害があるのですよ。だから災害から自分の命を守って周りの人を助けるためのどうしたらいいか考えましょう。じゃあやってみたいけどお金もないし場所もないしどうするのとなったときに、そのための助言や手助けをしてくれる組織がこういうところにありますよ、それを紹介しますから、みんなで勇気を持ってはじめましょうと書いてあるといいのかなと。

(定池委員)

そういったメッセージでご覧下さいというようにしていただいて、最後に今の「はじめに」にあるような、こういう背景、思いでテキストを作りましたと、みんなで防災の潮流を作っていきましょと。

(鈴木委員)

一般の方に見せるので、もう少しレベルを下げた方がいいのかなという気はしました。

(岡田委員長)

ありがとうございます。今気づいたのですが、字が多すぎるのですね。ここはもうちょっとアピール性、お招きするという形にしておく方がいいのでは。その後、2ページ、3ページのように入りやすいイメージが出てくるので、はじめにたくさんの活字を見せられると抵抗があるのではないのでしょうか。

(榎本委員)

実践編の中身は良いのですが、全体に字が多い印象があるので、もう少しイラストを入れていくと見やすいのではないのでしょうか。それから、知識編の8ページですが、地震から命を守るポイントが3つあるのですが、1番目の落下物から身を守ることは当然だと思うのですが、2番から3番が本当のナンバー3のポイントになっているのかなというところとどうかと思います。

(定池委員)

これはとっさの時の行動ですよ。そのときにグッときたらどうするというのがこの3つなのですが、その前に普段から出来る備えはこれというポイントがあった方がいいのではないかと思います。

(榎本委員)

今は地震が起きるとガスとかストーブは止まりますよね。

(定池委員)

止めるという書き方ではないですよ。

(鈴木委員)

勝手に止まりますから、まず自分の身を守ってということですね。

(定池委員)

近寄ってはいけないのですよね。コンロから離れましょとありますよね。行動を書いてあるのですが、どちらかというと考え方というか、物にぶつからない、当たらないとか、原則的なことを書いてしまった方が良くないかなと思うのですが、これだけだと行動なので、行動も大切なのですが、行動のための考え方というか。

(榎本委員)

例えば窓ガラスから離れるとか、危険な場所に近寄らないとか。

(定池委員)

危険な場所から離れるのか近寄らないか分かりませんが、怪我しないように窓から離れましょうとか、机の下に隠れましょうとか。何のためにそうするのかというのが逆転しないような書き方をした方が良いでしょう。屁理屈ですけど机がなかったらどうすればいいのとなったら困るので、こうしましょうねというのがあると良いのではないのでしょうか。

(岡田委員長)

榎本委員にお聞きしたいのですが、地震と津波が分けられているのでこう書かざるを得なかったのですが、読む人にとっては同じことだと思うのですよね、ですから地震から命を守るポイント、グラツときたらどうするかということで1から3のポイントが出てくるところに、津波に関する話が出てこないということはあまりにも離れていると思うのですが。18ページの津波の話には、地震に関する話が出てくるのですが、地震のページには津波が出てこない。読む人には違和感があるのではないかと思います。いかがですか。

(榎本委員)

場所によって対応は違いますが、当然、地震と津波はリンクしたものなので、地震の話の中にあるのは大事なことだと思います。

(岡田委員長)

8ページの中で地震から命を守る、取るべき行動の中に繋げて、詳しくはこちらのページに書いてありますというようにリンクしていただけるとありがたいですね。

(定池委員)

内陸の人だともしかすると津波のページを見ないという可能性もありますよね、でも、旅行などで海辺で過ごす可能性もあるわけですし、地震のみではなくて、津波へのリンクということも是非お願いします。

(岡田委員長)

津波のところで一言でいいのですが、地震が原因でない津波もあるということもどこかに入れていただきたい。北海道の場合は歴史上、2つの大きな災害があつて、渡島大島の噴火による津波と駒ヶ岳の噴火による津波がありますし、それ以外にも土砂崩れによるものとか、世界では火砕流が原因でなど、津波の原因としては色々あるので。

(甲谷課長)

29ページに火山噴火による津波はコラムで記載しております。

(榎本委員)

火山噴火の津波は海だけではなくて、湖で起きたこともあります。

(岡田委員長)

ありますね。カムチャッカなどで起きていますね。もうちょっと原因を膨らませてください。

(定池委員)

細かく見ていくと色々あると思うのですが、いつまで修正を受け付けてくれるのですか。

(岡田委員長)

知識編と実践編とDVDについては、今後のスケジュールはどうなっているのでしょうか。

(事務局)

調査研究事業は3月までであるのですが、ただテキストを作りこむスケジュールというのは、構成を含めて時間を決めていかななくてはならないので、大きな構成の入れ替えは来週いっぱいを目処としていま

す。細かい文言については、今後数回の校正は予定しており、その中で修正していきませんが、例えばページが変わるとかの修正がありましたら、来週いっぱいにはいただければと思っております。印刷データを作成した段階でも細かい文字とかの修正は行います。

DVD に関しましては、2月いっばいを編集期間としており、2月中の修正については対応可能です。スケジュールの詳細については、来週月曜日にはお送りいたします。

(岡田委員長)

細かいところをちゃんと見た方が良いと思いますので、そういう作業が出来るスケジュールを示してください。DVDは2月いっばいなので、頑張ってなるべく良いものを。テキストは文書として残りますので、細かいところまで皆さんに見ていただきたいと思います。

(定池委員)

質問ですが、DVDの実践編で北野さんという男性が出てきてというのは面白いと思ったのですが、全体のバランスを考えると女性の登場人物が出てくるといことはあるのでしょうか。男性の防災リーダーというイメージになってしまうと、全体のバランスとしてよろしくないと思うので、例えば登場人物が男性だとしても、事例などで、女性が出てきて、全体のバランスとして男女のバランスを配分していただけると、固定した役割というイメージにならないように作れると思いますので、よろしく願います。

(事務局)

ナレーションは女性ですが、事例などで女性を出すことは可能です。

(定池委員)

ナレーションなどでは補助というイメージがあるので。

(甲谷課長)

事例でどのようなものを出すかですが、例えば「江別のリスクと闘うママになろう」だと、ママ達が勉強し、先生も女性でした。実際に取り組んでいる方達、十勝の防災マスターの取組では女性が活躍しているので、リーダーとしてその画が出てくるだとか。そういう形でバランスがとれるような。

(定池委員)

消防関係でも女性の方はいらっしゃいますよね。

(鈴木委員)

そうですね。たくさん入れていただけるとありがたいです。女性消防団員の方は2千名を超えておりますし、婦人防火クラブの方は2万3千人くらいいらっしゃいますから、その方々が地域防災リーダーとして活動しております。よろしく願います。

(甲谷課長)

実践編についてですが、後半の方で事例を掲載しておりますが、この事例が女性だったり子どもだったりするのですが、ここについては、これよりこっちの方が良いというのであれば、相手に確認する必要があるのでは、見ていただいてアドバイスがあるのであれば、早くいただいた方がいいのではないかと思います。

(平岡委員)

テキストですが、これの使われ方はどうなのでしょう。私のイメージでは防災教育を進める側、教育をする方々が教材としてテキストを使いながら、一般の方に対して使うというイメージでよろしいのでしょうか。

(事務局)

はい。

(平岡委員)

そう考えたときに、DVD は一般の方に見せるように作られていると思うのですが、テキストの情報量はコンパクトで良いのではないのでしょうか。もう一つ、普及活動を行ったときの、参加者用のもの、何らかの持ち帰り用のまとまったものが必要となるのではないのでしょうか。このテキストそのものを配布するようなものではないかと思っていたものですから。

(岡田委員長)

先ほどから、文字量について意見がでていますが、知識編と実践編とは全然違いますよね。実践編は細かくたくさん書いているのですが、これはそんなに減らす必要はないと思うのですが、それに対して知識編は比べると大分少ないのですよね、でも、この3分の2くらいにした方が良いでしょうか。皆さんで議論したいのですが。

(定池委員)

文字の大きさもありますよね。実践編は防災リーダー向けということで、多少文字が大きくても良いのでしょうかけれども、現状として防災マスターの方は年配の方が多くて、講演会でも文字を大きくしてほしいという要望があるのですね。このテキストの文字の大きさだと、目が疲れてしまうと思います。もうちょっと文字量を減らして、文字を大きくして見やすくした方が良いでしょうか。

(事務局)

本日、デザインのイメージをお配りしております。文字の大きさもそうなのですが、間隔についても配慮しております。

(岡田委員長)

いかがでしょうか。もう少しご意見をいただきたいのですが。実践編はたくさん書いてあるのですが、この中での文字量や情報量はいかがでしょうか。

(榎本委員)

見やすさについては、デザインの印象は良いと思います。これにイラストなどが入っていくと見やすくなります。読んでいく順番はちょっと意識、統一性をもたした方が良いでしょうか。

(岡田委員長)

実践編については、そんなに内容を減らすことはできないと思います。頭から全部読み通すものではないと思うので、全体の流れを追って、そのうちの自分が知りたいところを読む形になる可能性があるのです。実践編はそんなに内容はおとさないで、というようになるのではないのでしょうか。

(甲谷課長)

文章がこなれてないので、内容は落とさずにコンパクトな表現を工夫したいと考えております。

(岡田委員長)

そのあたりも含めて、知識編、実践編のテキストの内容について、この部分は文字数を減らした方が良いでしょうかという意見をいただきたいと思います。

(榎本委員)

防災マスターの活動が実践編の中に反映されていないので、こういったときに防災マスターが活用できます、という話があるとPRになると思いました。それから、連携というものをテーマとしているのですが、例えば、後半の各機関の紹介がありますが、これだと事例紹介の中が連携ではなくて、単独でや

っている事例紹介になるので、こことここがコラボするとこんな事例になるといったものを入れておくと、こんな所と一緒にやるとこういうことになるのだなといったヒントになると思います。それから、テキストと DVD のリンクは考えているのですよね。最近はスマホだけではなくて、モバイルも結構あるので、アドレスには QR コードを付けた方が良いでしょう。

(岡田委員長)

実践編ですが、防災マスターの話題は入っているのですか。

(甲谷課長)

33 ページです。一つ目は31 ページに自主防災組織をつくったり活用しましょうというのがある、33 ページに防災リーダーをつくって活用するという話の中に、地域防災マスターの制度があって、どのくらいの人数がいて、それから、十勝や恵庭の事例を書かせていただいております。34 ページからは、同じ人づくりなのですが、地域が独自に行っている人づくりの事例を載せています。

(岡田委員長)

防災リーダーの養成と活用のところを、他のページと繋がるようにしておけば良いと思うのですが。47 ページの便利ツールがありますよね。ここは良いと思うのですが、下のところに、北海道では地域防災マスターをやっていますと書いて、ここについては何ページで、色々なところで活用されて地域のリーダーを育成していますと、詳細は何ページでというリンクを記載してはどうかと。くどいですかね。

(甲谷課長)

先ほど榎本委員がおっしゃった連携のところですが、36 ページの最後に地域防災マスターについて記載しているのですが、ここをもう少し目立たせるということもあるのかなと思います。

(岡田委員長)

いまのページとリンクさせれば良いですね。それを47 ページの下の空いているところに導入すると良いと思いますので検討をお願いします。

これは細かいところまで詰めていきたいので、これからも精査をお願いします。

引き続き、ポータルサイトとして立ち上げる防災教育ホームページの作業状況とレイアウト案などにつきまして、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

【資料4-3に基づき説明】

(岡田委員長)

ただいま、ホームページの構成案などについて、説明がありました。デザインや内容等について意見交換をしたいと思いますがいかがでしょうか。

(鈴木委員)

例えば DIG をやりたい、避難訓練をやりたいというときに、指導者を探しているときは、講師・人材情報のページにいけばそこに DIG の指導者は誰で避難訓練はこういう指導者がいると出てくるのですか。

(事務局)

その内容の参考となるのは、資料1-2の別紙2になります。5 ページ以降に内容を掲載しております。研修ニーズに応じて探す場合は検討いたします。教材ライブラリーでは詳細に検索できる仕組みになりますので、講師については検討していきます。

(甲谷課長)

中々、講師情報を掲載するのは難しく、まだ相手方ともお話ししておりませんので、ここは出前講

座をやっていますよ、こういう研修に行きましたということ載せることによって、そんなに件数はないのでその一覧をみながら、この先生に連絡しようか、といった方法になるのかと思ったのですが、掲載する相手方には、どういうことをやったことがあるなどの事例を聞いて、それを掲載してその中から参考を選んでいただく方法なのかなという気がしていました。

(鈴木委員)

どこにお願いすれば良いのかが分かるようにすれば良い。こういう組織があつて、こういうことを教えているというのが分かれば良いのではないか。

(岡田委員長)

今後のこともありますので、具体的に、誰を対象にどこの組織がどんなことをやったという履歴がわかるようにすれば良いですね。それぞれの機関をクリックすればそこに入っていく。欲を言うと3. 1 1以後の分もフォローアップできると良いと思うのですが。具体例を見ながら探すと思うのですよね。

(榎本委員)

9ページにあるデータベースですが、道内と道外のを分けるようなものはあるのでしょうか。

(事務局)

はい。道内、道外の学習資料だとか、道内、道外の防災ハンドブックは選べるようにしております。

(榎本委員)

イメージが違ったのですが、道内版でこういうものが見られるという作り込みにはならないのですか。例えば、地震とかは比較的全国共通でも良いのですが、風水害や火山は地域性があつたりとかで、全国共通では使えないものが多いと思います。参考程度に本州の資料を見ることがあると思いますが、出来れば北海道の中の資料を中心にしてもらえるような作り込みの方が良いと思います。それから、縦軸の種類なのですが、順番は大事だと思います。一番上に有償のものと、有料のものを進めていると思われるのかなと。使いやすい物とか無料のものを中心に順番を考えていった方が良い。デスク型とかフィールド型という書き方は一般の型は馴染みのない言葉だと思うので、書き方を変えた方が良いのではないのでしょうか。

(岡田委員長)

ホームページについては細かい所を見ていくと時間がかかりますので、ここまでにしていただいて、今後のスケジュールでご意見の期限などを示していただければと思います。それでは、引き続き、協議事項の2「道の支援機能等に関する意見交換」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

【資料5-1～5-2に基づき説明】

(岡田委員長)

ただいま、前回議論の経過や最終とりまとめの内容について事務局より説明がありましたが、何か、ご質問等はございますでしょうか。

(平岡委員)

前提を聞きたいのですが、資料5-2はどう使われることを想定しているのですか。ここで皆さんの意識を確認することだけではないのですよね。

(事務局)

委員会としての提言というか、この検討委員会の最終的な取りまとめというかたちでまとめさせていただきます。

(甲谷課長)

もうすぐ議会が始まるのですが、委員の皆様にはこういう取りまとめをさせていただきました。道庁としては平成26年度からこういうことをいたします。ということを議会に報告させていただく。要するに道民の皆様にご報告し、道庁としてはこれを踏まえて次の一步を踏み出しますというように使わせていただく予定です。

(上田委員)

全体の報告書の後書きみたいなものは。

(甲谷課長)

委員会としてはこちらの資料でいただく形です。調査研究業務については、別に成果品や報告書を作成いたします。

(岡田委員長)

道議会及び道民に対する広報のベースになるという扱いですね。一つ気になったのですが、「終わりに」の4行目のところに「有無」とありますが、もうちょっと良い表現がないかと思っています。

(定池委員)

2点気になることがあるのですけれども、1行目の「その時」とありますが、その時というのは地震が起こった瞬間という感じのイメージがあるのですが。時間的なことなのか、災害は一瞬かもしれませんが、火山だと何年も続く場合もあり、復旧復興まで長い時間がかかるので、復興が終わるという言葉はあまり使いませんが、命を守り抜くことが大切なので、その時としてしまうとニュアンス的に瞬間と捉えられるかなど。もう一つは4行目に「自然と親しみ学んでいけるように」というところで、これも大切だと思うのですが、生活の中で防災をといるところは、地域の繋がりを大切にしましょうとか、普段の一見防災と結びつかない活動とかも含んでいるような議論を検討委員会でしてきたと思うので、自然と親しみ学んでいけるような以外の部分も出すことができると、今後の活動の展開にも繋がっていき、この委員会で話し合われたことが反映されてくるのかと思いました。

(岡田委員長)

2点目のところは何か一つあるのかと思いますね。1点目についてなのですが、これは災害全体について言っているのであって、地震のその瞬間にこだわっているのではなくて、それ以後の、2段以降のところも含めさせていただいている。インパクトのある言い方をはじめにしているということです。

(定池委員)

私の思っている一般的なイメージだと、地震が起こった瞬間に机の下にもぐりましょうというのが防災教育だというイメージを強化してしまうのではないかなと思います。

(岡田委員長)

例えば震災関連死の問題とか、起こってから救助の問題、復興に至るまでを含めた意味で、その時と言うべきではないかと思うのですが。

(定池委員)

それを読み取っていただけるかなというのがありまして、思いとしては共通していると思うのですが、世に出て行くときの伝わり方としてそういう風に伝わっていくかなというのが気になったのですが。

(鈴木委員)

「その時、いのちを守りぬくこと」ですが、命を守り抜くという主語は誰なのでしょうか。

(岡田委員長)

多分、自分とまわりの人でしょうね。

(鈴木委員)

全部でしょうね。

(岡田委員長)

もうちょっと良い表現があれば意見をいただければと思います。この文章は近々使いたいと思っておりますので、日数が限られておりますので、完成させたいのですけれども。

(定池委員)

防災教育は何かに向かっていく教育なわけで、災害の時にいのちを守り抜くことに帰結することが防災教育なのですよ。

(岡田委員長)

代替案について何かありますか。

(定池委員)

考えます。

(岡田委員長)

2段目のところは、最後のところの「防災活動の輪を普段の生活の場まで広げていくことが大切です」のところは、「普段の生活の場まで、地域における防災活動の輪を広げていくことが大切です」ということで良いのではないのでしょうか。

(定池委員)

ただ、「自然と親しみ学んでいけるように」というところが、それだけが防災教育の方法みたいなイメージになっていると思います。例えば、「自然と親しみ学んでいながら」という一つのやり方ですよというニュアンスにした方が良いのではないかと思います。

(甲谷課長)

つまり、「自然と親しみながら」と簡潔にいつてしまうとか。

(定池委員)

これだけだと自然と親しまないと防災教育ができないのではないかと思います。

(岡田委員長)

定池委員は自然というのが親しみに係っていると思ったのですね。でもこれは、自然と学んでいけるに係っていくものなのですよ。

(定池委員)

北海道の大自然に係っているものだと思います。ありがとうございます。

(甲谷課長)

今回新しく出た「集中的な推進期間」で、おおむね3年程度集中期間としてネットワークを拡大していくという表現にしたのですが、その拡大させた状態を持続するという表現を入れました。加速し継続する表現を入れました。

(岡田委員長)

この検討委員会を始めるときから、皆さんから強い意見が出ていたので、是非、その加速と継続の2本柱でお願いしたいと思います。

それでは、いろいろ議論を進めてきましたが、この「最終とりまとめ」については、ちょっと変わるかもしれませんが、大体ご意見をいただいたベースで確定させていただきたいと思います。

**(甲谷課長)**

このご提言をいただきまして、北海道としては、このネットワークの設立を前面に出していきたいと思うのですが、4つの具体的な取組については、今まで提示しておりましたが、来年度4月に発信できる状態をつくり、さらに(4)にあります担い手の育成については、市町村職員等の研修機会の拡大について、これは具体的に市町村などと連携、ご協力いただきながら、市町村職員向けのセミナーにカリキュラムに入れる方向で、また、北海道消防学校で消防職員に対してDIGの養成講座を試行していただくとか、消防協会には、行政職員も研修に参加できるということについてはご協力をいただいているところです。③のところは例えば幼稚園協会ですとか女性協会ですとか、色々な団体が色々なセミナーを行っていますので、そこで防災という切り口でセミナーをやって、その協会や団体の中の防災意識を高めてどんどんやってくださいというように色々な形でやっていきたいと思っております。いただいたご意見を踏まえて、アクセルを踏ませていただきたいと思います。

**(岡田委員長)**

ありがとうございます。続きまして、協議事項の3「その他」について、事務局よりお願いします。

**(事務局)**

本日は長時間ご検討いただきありがとうございます。調査研究事業の作業が、3月までの間、残っておりますので、委員の皆様とも個別に意見交換させていただきながら、仕上げたいと思っておりますので、その際はよろしくをお願いします。

また、資料5-2、最終とりまとめの修正につきましては、委員長とご相談の上、成案とさせていただきますので、よろしくお願いたします。事務局からは以上です。

**(岡田委員長)**

全体を通して何かございますか。ないようですので、私の方から一言ご挨拶したいと思います。

7回の会議、どうもありがとうございました。会議をやっただけで何か生まれるわけではないのですが、我々はそのことをいつも考えながら、やはり会議をやることによって、この後何かがスタートして続けていけるように、これがやはり防災教育には一番大事な点だということ、はじめから意識しながらやってこられたということを大変嬉しく思います。その結果が少しずつ見える形でともかく動き出そうとしている。皆様のご協力のおかげで横をつなぐ、縦をつなぐ、地域をつなぐ、時間軸をつなぐ、過去の災害を活かして次のより安全な北海道をつくっていくという流れに対して、この委員会がある程度役目を果たしたかなと思います。皆様の色々なご協力をいただきまして、実際現地に行っていたり、細かい点まで文章を見ていただいたり、そういうことが非常に大事だったと思います。ありがとうございました。

**(事務局)**

岡田委員長ありがとうございました。閉会に際しまして、危機対策局長の福井から、挨拶申し上げます。

**(福井局長)**

まだまだ議論は尽きないところもあると思いますが、一言ご挨拶させていただきます。岡田委員長はじめ委員の皆様におかれましては、長期間にわたりまして、4月から精力的に様々なご意見をいただきましてありがとうございます。

私どもに課せられた課題は非常に大きいと認識しております。これは、道だけではなくて市町村や団体、いきつくところは道民一人一人ということになりますが、防災について一人一人が認識を持っても

らうためにも、委員会でいただいた報告を基に防災教育を一步踏み出していきたいと思います。先ほどのお話にもありましたように、一過性で終わらないように、持続するというのはすごくエネルギーが必要なのですが、私どもも頑張っていきたいと思います。まだまだこれからも様々なご意見なりアドバイスをいただくこともあると思います。私としては名残惜しい感じもするのですが、今日の会議をもってこの委員会を締めたいと思います。委員の皆様ありがとうございました。